

# 2018春季生活闘争

## J R 連 合 F A X ニ ュ ー ス No. 4

2018年2月13日 日本鉄道労働組合連合会（JR連合）

### J R 九州労組が「第30回定期中央委員会」を開催！

## チャレンジ2018・「職場の働き方改善提言」に基づき 組合員・家族、グループ労組が一体となり総掛かりの闘いを展開する！

## 純ベア 3,000 円を含む「月例賃金総額 6,000 以上」、 「総合労働条件の改善」を掲げた要求を決定！

2月9日、JR九州労組は、福岡市内のKTPガーデンシティPREMIUM博多駅前において、第30回定期中央委員会を開催し、安全確立、組織の強化・拡大、2018春季生活闘争勝利、各種業務・政策課題の解決、中間地方選挙（始良市議会）における推薦議員の勝利にむけて、「当面する活動方針」を討議、決定した。

中原中央執行委員長が中央執行部を代表して挨拶を行い、熊本地震の傷跡が癒えない中で発生した九州北部豪雨や台風18号による被災に触れ、「あらためて自然災害に耐えうる防災・減災対策の必要性を実感された年となった」と昨年を振り返った。また、苅田町長選や太宰府市議会選に対する組合員の協力に感謝を述べた。安全確立にむけて、JR九州グループ全体で醸成すべく、JR九州連合との連携も図りながら取り組む決意を語った。2018春闘にむけては、「ベアにこだわるだけでなく、金額にもこだわった闘いを組合員・家族総掛かりで取り組む」と強調した。政策については、税制改正に加え、自然災害への対策強化・復旧にむけた取り組みにも言及した。最後に、中間地方選挙をはじめ、来年の統一地方選、参議院選にむけても一丸となって取り組む考えを示した。

来賓としては、4月に予定されている始良市議会選挙で3期目を目指す上村親市議会議員（組織内）と、JR連合の中村交通政策部長が参画し、安全の確立、2018春季生活闘争、民主化闘争、自然災害からの復旧、地方鉄道ネットワークの維持・発展をはじめ各種政策課題の取り組みなどについて挨拶を行った。

質疑では、19名の中央委員・特別中央委員より、①安全確立に向けた取り組み、②2018春季生活闘争、③効率化施策とその進め方、④4両ワンマンやダイヤ見直し、SSS、要員不足等の業務課題、⑤民主化支援単組としての取り組み、青女世代への教育、女性組合員との対話充実など、組織の充実・強化、⑥自然災害に伴う政策課題解決についてなど、多岐にわたる活発な発言があり、中央執行部からの中間答弁後も熱い質疑応答が行われた。

総括答弁に立った芦原書記長は、2018春季生活闘争をはじめ、組織課題、政策課題などの諸課題の解決、さらには会社施策への対応として、3月のダイヤの見直しによる大幅減便などに対しての協議に向けた強い決意を述べるとともに、組合員・家族総掛かりの取り組み強化を要請し、執行部から示された方針案が出席者全員で確認された。

最後に「諸先輩方が築き上げてきた運動と想いを次世代に継承し、強固なJR九州労組を創り上げなくてはならない」との委員会宣言を採択した後、中原委員長の団結ガンバローで閉会した。

以上